

 評価のポイント

## CL- II .ニーズを捉える力（精神科）

## [13-2] 発達障害の複雑事例

① B 君の生育歴・現病歴からのアセスメントからどのような問題点が挙げられますか。看護計画立案をしてみましょう。

資料 p.5 を参考にしながら、発達障害の特性も考慮し問題点を考えていく。発達障害は、新規場面やさまざまな刺激に反応しやすい傾向があるため、患者の特性・行動パターンを把握することも大切である。まず、入院前に見られた自傷行為や暴力の問題が入院後どのように出現するかわからないため、リスクとして問題点をあげてもよい。また、入院という慣れない環境による影響（自傷行為・暴力など）も考慮しながら、上位目標として、「看護師との一対一の関わりを通して関係構築し、治療的環境を作っていく」としてもよいだろう。下位目標は、コミュニケーションの問題もあるため、「気持ちの言語化」などは相当ハードルが高くなる可能性がある。「イライラ」や「落ち着かない」ということを訴えられない可能性もあるため、「頓服薬内服の促しに応じられる」「ケアを受け入れられる」「看護師を呼ぶことができる」などの目標にしていく。具体的な対応としては、ある程度の生活のパターンが理解できるよう、日々のスケジュールをポスター化したり、困った時やイライラした時はどうするかをわかりやすく提示するなどの工夫が必要となる。

② 発達障害の相談機関・支援機関について、インターネット等を使って実際に調べてみましょう。

実際にインターネットで調べてみると、さまざまな情報があることに気づくだろう。厚生労働省のホームページや住んでいる地域・自治体のホームページ、NPO 団体の取り組みなどの情報をみることで、発達障害の相談機関・支援機関を理解していく。